

たいくつな話

法学部長 辻

秀典



入学おめでとう。
今、君たちは、受験勉強から解放され、自由で晴やかな気持ちいっぱい、抑えられていた青春のエネルギーを一気に発散させようと張り切っていることであろう。科学の試験に合格して、馬を駆り一日で長安中の花を見尽くしたという話もお隣の中国にはある。厳しい受験勉強に耐えてきた君たちには羽目はずすことも必要だと思ふ。その際、一つだけ希望がある。羽根を伸ばさず、羽目をはずすことを知的方面でも忘れずやってほしいということである。

君たちも感じているように、世界はいまだ

きな変化のなかにある。戦後のこの五十年は、「冷戦」と「経済成長」の二つで特徴づけられる時代といわれている。このうち「冷戦」はソ連邦の崩壊とともに終り、また、「経済成長」も環境問題の深刻化等によつてその限界が明らかになっていく。このように一つの時代が終わった、あるいは終りつつあることは確かだが、しかし、それではこれからどうなるかといえば、見通しは甚だ不透明で、また現状の打開には難問が山積しているといわなければならぬ。たとえば、日本の国際貢献のあり方一つをとっても、アジア諸国に対する戦争責任、憲法第九条の取扱いという難問を解決することなしに方向を示すことは不可能である。私たちをとりまく課題は深刻で巨大である。社会科学の研究と英知がこれほど求められている時代はないといつても過言ではない。

我が法学部はこうした問題に取り組む格好の場所である。諸君の青春のエネルギーと知的能力を難問にぶつけ、大いに問題と格闘していただきたい。そのとき、君たちは、受験勉強のときには経験できなかった興奮を覚え、学問の意義を感じとるに違いない。

“Come on!”
法学部学生 大澤 恵美子

春が来た。満開の桜の中、大学生活への新たなステップを踏み出した皆さん、Congratulations! 大学入試という長い苦しみから解放されてホッと一息ついている人もいれば、これからの学生生活に夢をふくらませている人もいるであろう。



未熟者ではあるが、一人の先輩として私が皆さんの大学生活について助言できることは、とにかく自分のやりたいことにはどんどん挑戦していくということである。大学というところは、今までの学生生活とちがって時間的に自由である。その自由な時間をいかして勉学・サークル・広い人間関係の形成に励んでもらいたいものである。後に振り返りかえった時、大学四年間の軌跡が、ひかり輝くよう、悔いのない生活を送って下さい。

春の風

若人たちに
ひかりあれ



法学部全景を望む